

世界が進むチカラになる。



経済調査

# 米国景気概況(2026年6月)

2026年6月2日

調査部 主任研究員

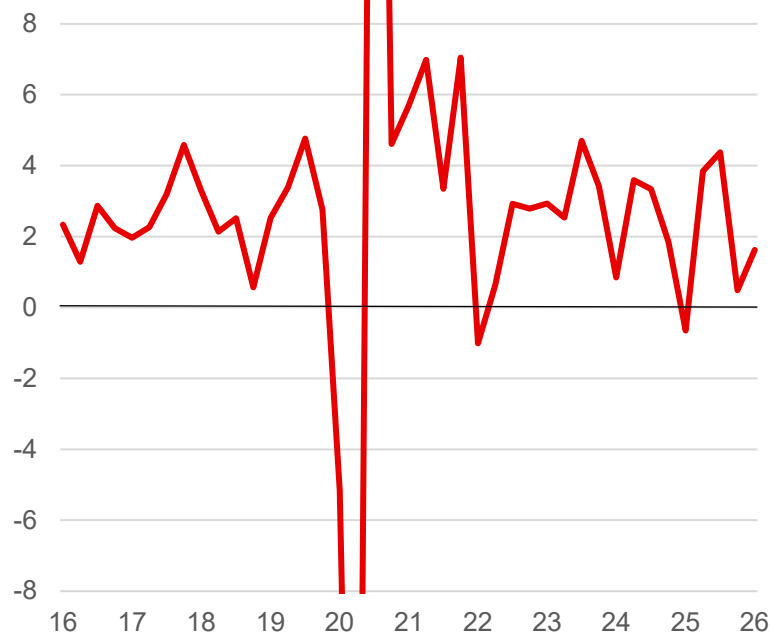
細尾 忠生

# 景気は底堅い

米国経済は堅調に推移している。1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率1.6%に加速した。輸入が1年ぶりに増加し成長率を押し下げたが、個人消費が底堅く推移し、設備投資はおよそ3年ぶりの高い伸びを記録した。企業の景況感を示すISM景況指数は、製造業、非製造業いずれも判断の目安となる50の水準を上回った。先行き、堅調な個人消費やAI需要の高まりなどから景気は底堅く推移する見込みである。

## 実質GDP

(前期比年率、%)

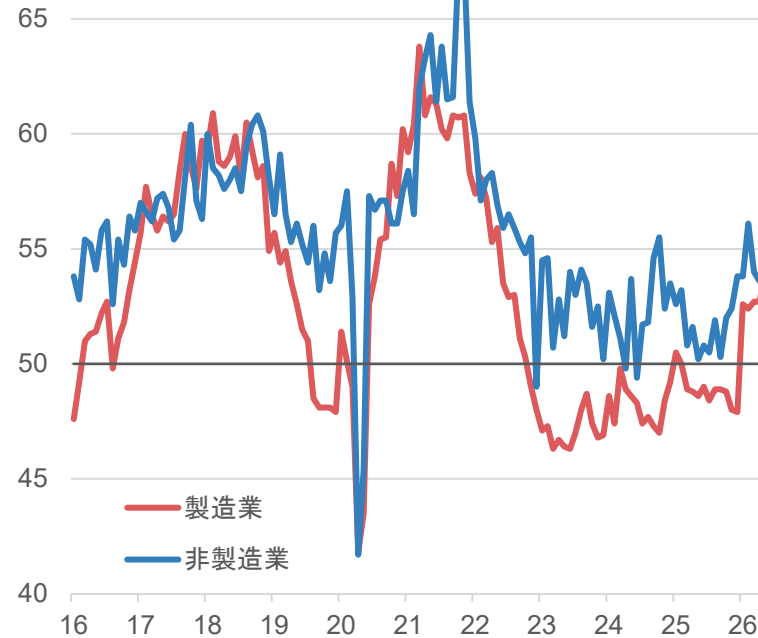


(出所)米商務省

(年、四半期)

## ISM景況指数

(%)



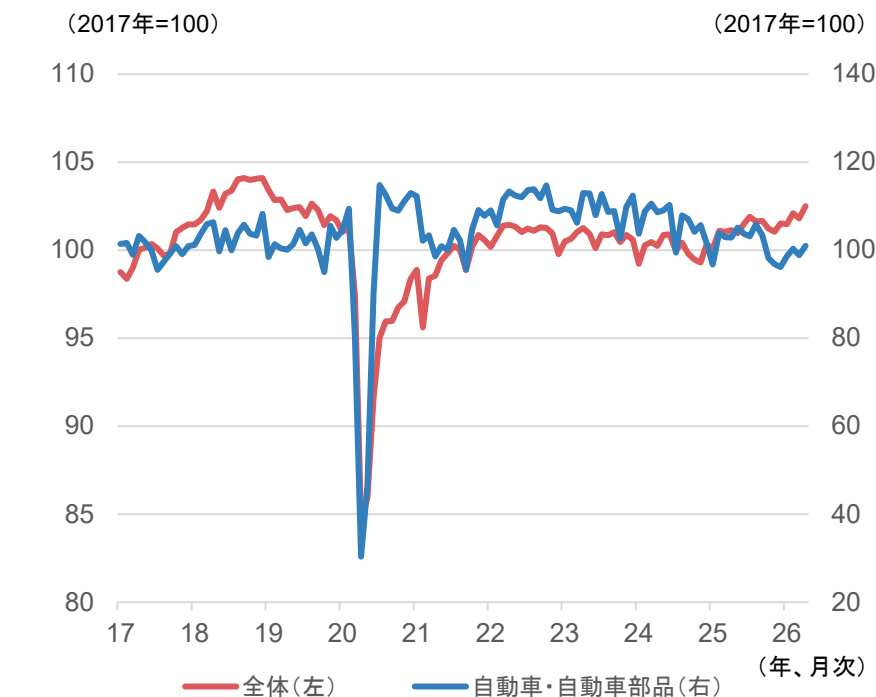
(出所)米供給管理協会

(年、月次)

# 生産、雇用は増加

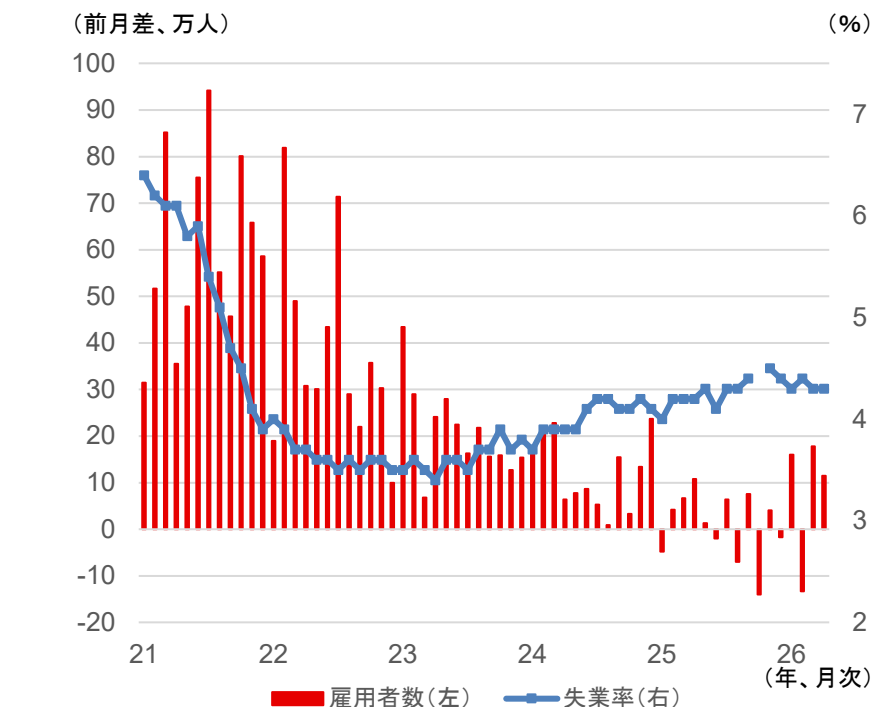
- 4月の鉱工業生産は前月比0.7%増加した。自動車・部品が同2.2%増加したほか、電力などの公益も同1.9%増加した。また、設備投資動向を示す4月のコア資本財出荷は同0.4%増と3カ月連続で増加した。
- 4月の非農業部門雇用者数は前月差11.5万人増加した。業種別では、教育・医療(同4.6万人増)、運輸(同3.0万人増)、小売(同2.2万人増)の増加幅が大きかった。また、失業率は4.3%と横ばいであった。

## 鉱工業生産



(出所)米FRB

## 雇用



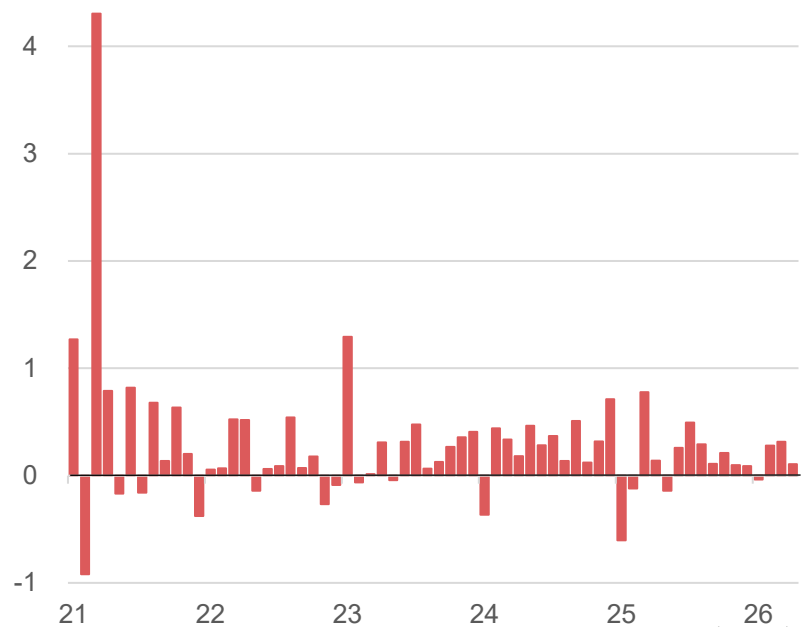
(注) 2025年10月の失業率は欠損値  
(出所)米労働省

# 消費は増加、物価上昇率はガソリン高が懸念

- 4月の実質個人消費は前月比0.1%増加した。内訳をみると、自動車などの耐久財消費が同0.1%減少したが、ガソリンなどの非耐久財消費は同0.2%増、外食、宿泊などのサービス消費も同0.2%増加した。
- 消費者物価(エネルギーと食料品を除くコアベース)上昇率は、4月は前年比3.0%に加速した。また、FRBが重視する個人消費支出物価指数(同)上昇率は、4月は同3.3%と2カ月連続で加速、およそ2年半ぶりの高い伸びとなった。先行き、サービスは鈍化傾向にあるが、財は関税に加え、ガソリン価格上昇の影響もあり、物価上昇圧力が高まる可能性が高い。

## 実質個人消費

(前月比、%)

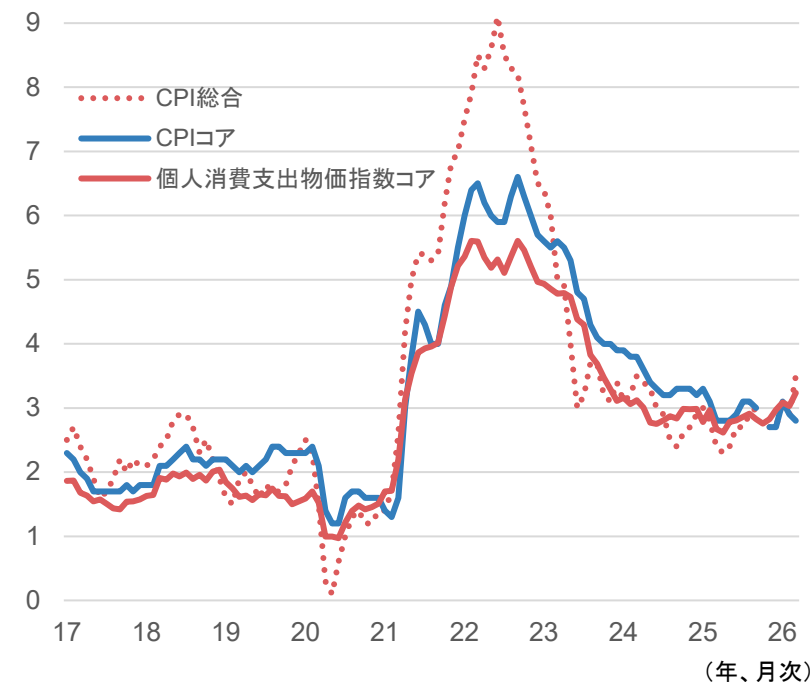


(出所)米商務省

(年、月次)

## 物価

(前年比、%)



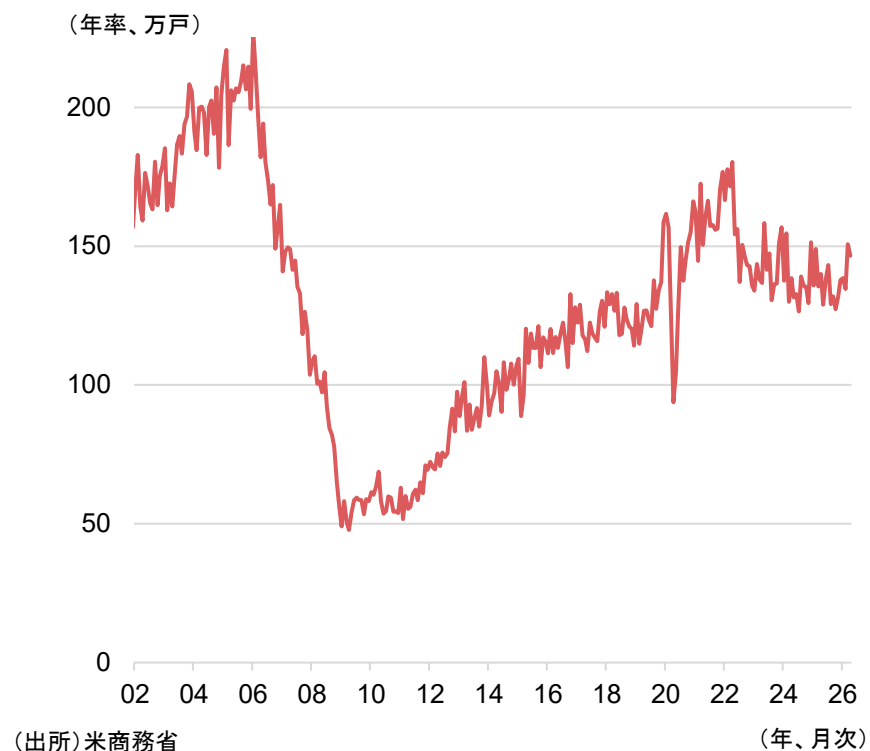
(注) 2025年10月のCPIは欠損値

(出所)米労働省、商務省

# 住宅：着工は減少、価格は上昇

- 4月の住宅着工件数は年率147万戸と、およそ1年3カ月ぶりの水準に増加した前月から小幅減少した。住宅価格やローン金利がいずれも高止まりしているため、住宅着工はなおしばらく一進一退の推移が続く公算が大きい。
- 3月の住宅価格指数は前年比0.7%上昇した。上昇は34カ月連続となったが上昇率は鈍化した。米国では住宅の供給不足が根強く、住宅価格は今後も上昇が続く見込みである。

## 住宅着工件数



## S&Pコアロジック・ケース・シラー住宅価格指数

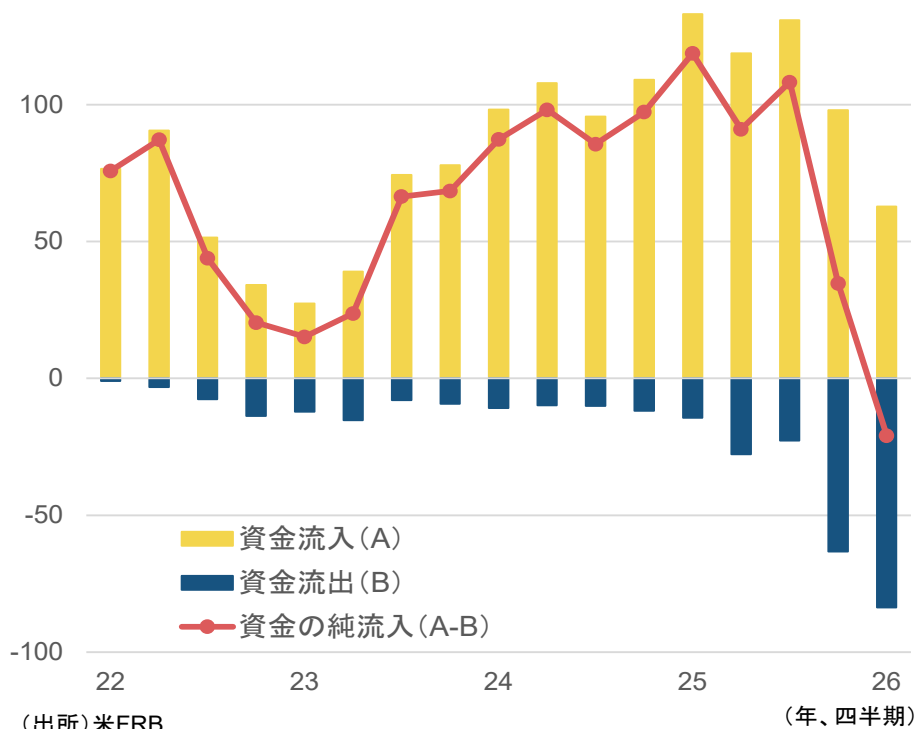


# プライベートクレジットからの資金流出

- ファンドによる中小企業融資や低格付け企業への投融資を指すプライベートクレジットへの懸念が強まる中、FRBの分析によると、プライベートクレジットのうち、主要なスキームである事業開発会社(BDC)という投資法人への資金流入が純減になった。
- 信用の質の目安となる社債のデフォルト率は低水準にあり、プライベートクレジットなどのノンバンクが投融資した債券・債権の質の劣化は、しばらくは限定的にとどまる公算が高い。もっとも、将来的に、景気後退などでデフォルト率が上昇するとプライベートクレジットファンドの破綻が増加し、金融システムを通じて景気後退の影響を増幅するおそれがある。

## BDCの投資家からの資金の流入

(億ドル)



## 米社債のデフォルト率

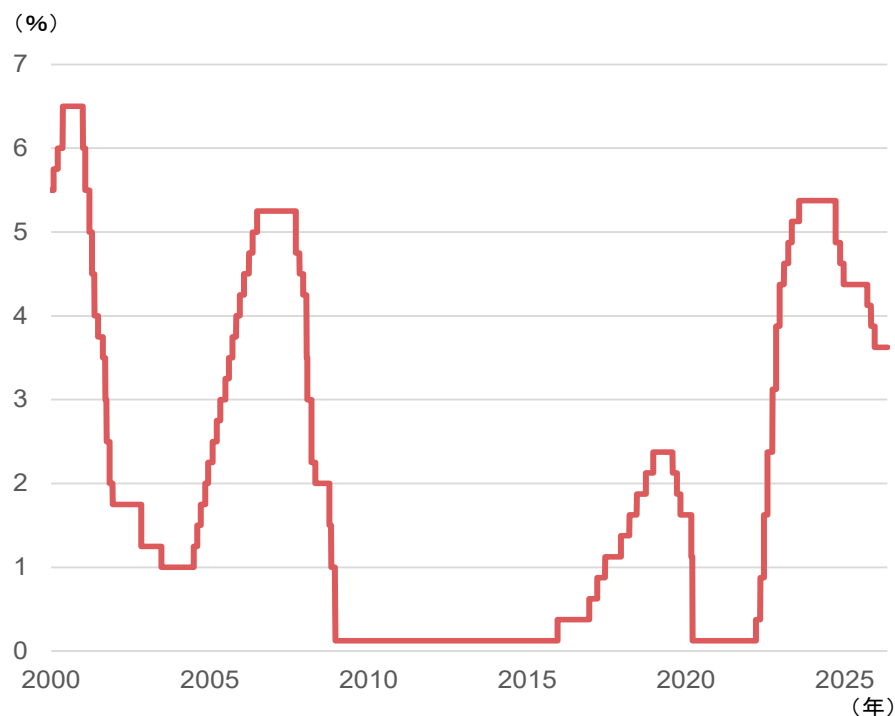
(億ドル)



# 金融政策：金利据え置き、市場は年内利上げを徐々に織り込む

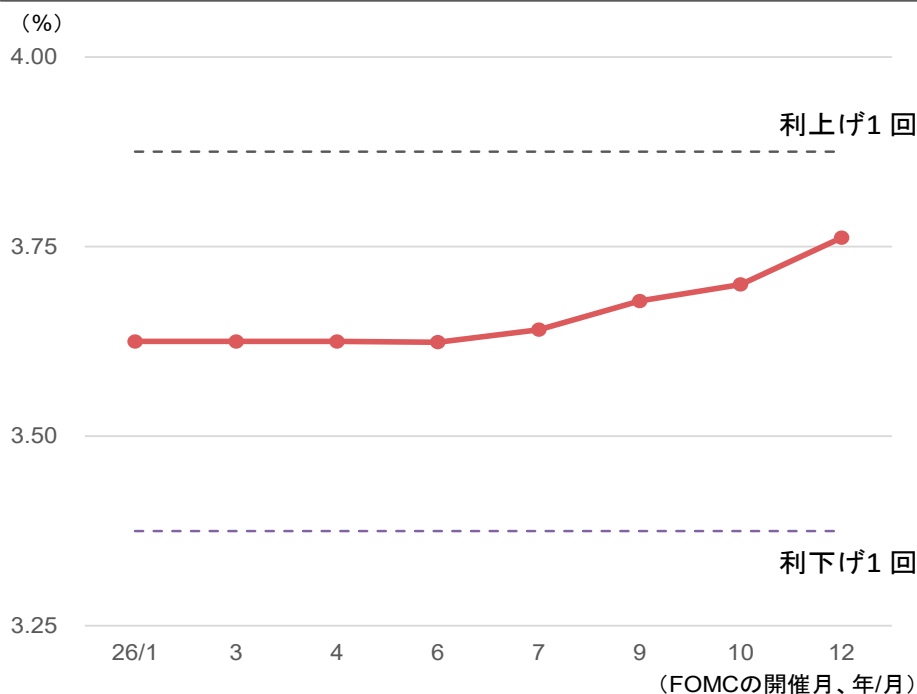
- FRBは4月28、29日に開催した連邦公開市場委員会(FOMC)で、政策金利であるFF金利の誘導目標を3.5~3.75%に据え置いた。パウエル議長(当時)は会見で、中東情勢の影響により、経済見通しの不確実性が高まっているとし、金利をしばらく据え置くことを示唆した。
- 一方、5月22日にウォーシュ新議長が就任した。インフレ懸念が強まる中、目先は、6月16、17日に開催される次回FOMC後の記者会見が注目される。CMEのフェドワオッチによると、金融市場では、原油高の影響などにより、年内に利上げが実施される確率が約55%程度織り込まれている。

## 政策金利



(出所)FRB

## 金融市場における各FOMCの金利見通し



(注)各FOMCごとの利上げ確率をもとに計算した加重平均値、6月1日時点の値

(出所)シカゴマーカンタイル取引所

## ご利用に際して

---

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 細尾

TEL: 03-6733-4925 E-mail: [chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー